



留学生
滞在記

My Life in Tokushima

ローマに通じる 道の一つは、徳島

医学部 医学科 4年

Limeisa (リメイサ) [インドネシア]

「YOUは何しに日本へ？」という番組をご存じですか。私がこの番組を知ったのは、日本へ留学する前でした。印象的だったのは、出演している外国人の生い立ちや自分の志、日本に対する期待、そして自分の夢を成し遂げるために

努力している姿でした。当時、私は既に日本に留学すると決心していましたが、母国から遠い国にひとりで行くことに、とても不安を感じていました。しかし、この番組に出ている自分と似たような道を歩んでいる人たちを見て、非常に励みになりました。

私が日本を好きになったきっかけは、日本のアニメや漫画でした。高校1年のとき、1ヶ月間ほど日本での語学留学のプログラムに参加する機会があり、日本の暮らしやすさや自由さに惹かれて、日本へ留学してみたいと思うようになりました。そして高校卒業後、大阪の日本語学校に通い、2年間日本語や受験勉強をし、徳島大学医学部に合格しました。

インターネットや日本語学校でも、日本人の「本音と建前」「外は外、内は内」といったことをよく耳にしました。入学当初は6年間ひとりで過ごす覚悟をしていました。しかし、入学後1ヶ月で自分に合うサークルや友だちと出会うことができました。自分と異なる背景を持つ人を相手になると、何を話したらよいかわからないと思うのは当然です。しかし、徳島大学で出会った人たちは、むしろ外国人で共通点のないように思える私に興味を持ってく

れて、声をかけてくれました。地理的、文化的な背景が違うからこそ、一緒にいてお互いから学べるものが多く、楽しいです。明け方まで盛り上がり、話し込んでしまいうこともあります。それぞれ違う道を歩む人たちですが、夢に対して同じような情熱を持ち、それに対して努力と時間を費やしている仲間を見つけたことができ、徳島に来てよかったと感じています。

私の将来の夢は、救急医として働きながら、休みの日は自分のスーパーカーでドライブすることです。救急医として日本だけでなく、アメリカや私の祖国であるインドネシアで勤務したり、紛争地域で医療ボランティア活動に参



病院見学(筆者: 左側)

加したりしてみたいと思っています。大学に入った頃は、どうすれば自分の夢を実現させられるかわかりませんでした。でも、USGOTという徳島大学の学生が創立したアメリカ医師国家試験(USMLE)の勉強会があり、そこで同じような夢を持っている学生たちと知り合うことができました。この勉強会に参加し、病院に働くための道のり、そして夢を実現させるための具体的なプロセスを教えてもらっています。

もちろん、これまでの留学経験は全て良いことだけではありませんでした。臨床現場では、適切に患者さんに対応するために、日本の文化的な知識や社交マナーを身



1年生の時の蔵本祭(筆者: 中央左側)

につける必要があります。でも、日本文化に溶け込もうとすればするほど、何か抵抗を感じます。「社交辞令」や言葉の「裏」の意味を理解すること、「ツツコミ」と「ボケ」など、外国人の私には未だわからないことがあり、悩むときも少なくありません。そんなときに日本人の友だちに相談してみると、「成長している証拠だよ。今まで通り、自分のペースでいいから」と

言われ、無理やり周りに合わせる必要がないと気付かされます。過度に周りのことを気にせず、自分の目標に焦点を合わせて行動していけば、いつか自分の目指す目的地にたどりつけると考えています。これからも、精一杯がんばって、自分の夢をつかみたいと思います。



生石高原の夕日(筆者: 右から2人目)